
看護師・看護学生のためのライティングテキストの現状と課題：留学生のためのライティング教育への応用を視野に

山元一晃¹⁾ 加藤林太郎²⁾ 浅川翔子³⁾

1) 国際医療福祉大学総合教育センター 2) 国際医療福祉大学総合教育センター
3) 国際医療福祉大学成田看護学部

【背景】近年、経済連携協定(EPA)により外国人看護師候補生の受け入れが進んでおり、これらの看護師のための日本語教育の教材開発が進んでいる。一方で、看護を学ぶ留学生も一定数いるが、それらの留学生のための教材は、少なくともここ10年間で出版されているものにはない。

【目的】本研究の目的は以下の2点である。(1)現在、看護学生および看護師のために出版されているライティングのテキストをリストアップする。(2)上記テキストの現状と課題を整理し、留学生のためのライティング教材としての応用が可能かを検討する。

【方法】まず、「国立国会図書館」および「公共図書館蔵書」の蔵書から「看護」および「記録」または「看護」および「ライティング」をタイトルに含む書籍を検索しリストアップした。その上で、タイトルから、学生や看護師が実習や業務のために書く「記録」とは異なると考えられるものを除外した。さらに、学部での学習には不適切だと思われるもの(監査のためのテキストなど)を除外し、15点をリストアップし、構成3条件、看護学3条件、および日本語教育3条件の9つの条件を満たしているかどうかを判定した。

【結果】本発表で対象とした18点には、全ての条件を満たしているものは存在しなかった。一方、8条件を満たしているものが1点、6条件を満たしているものは1点あった。上記2点は、日本語教育的3条件をすべて満たしており、前者は、構成3条件も満たしていた。一方、看護教育的3条件をすべて満たしている1点は、日本語教育的な3条件は満たしていなかった。

【考察】教師による補足説明があれば、留学生向けに応用可能なテキストもあることがわかった。一方で、学生の予習や自習のためには、日本語教育的な観点からの情報を補足した教材開発の必要性がある。

本研究は、倫理審査の必要性、個人情報の取り扱い、利益相反のいずれもない。